

# えこあぷ!

2004年6月 No.07

おもな記事 新連載「山菜名人のひと口!」3p / エコパ開発足しました4p / 初の自然観察会4p

## 開館おめでとう



(写真撮影 / 吉田健一氏)

5月1日土曜日。オープンを祝福するような青空のもと、「滝川市森のかがく活動センター」のオープニング・セレモニーが行なわれました。市民たち約50人に加えて、この日に合わせて前庭の木々に掛けられた巣箱10個には、ちゃっかり者のスズメたちがいそいそと巣材を運び始める姿が見られ、黄色い羽が美しいマヒワなどの野鳥も遊びに来ていました。

セレモニーでは田村弘・滝川市長、山腰修司・滝川市議会議長のあいさつの後、林芳男・北海道緑化推進委員会理事長から祝辞をいただきました。続いて、センターが公募したシンボルマーク入賞者の発表があり、最優秀賞の

朝日絵里さん(砂川市)、優秀賞の蔵谷由江さん(滝川市)に賞状と記念品が贈呈されました。

セレモニーの締めくくりは、ユニークな「丸太カット式」。空知町連合町内会会長の坪川総一郎さんをはじめとするゲストたちにノコギリが手渡され、センターの玄関前に差し渡したシラカバの丸太を挽いてオープンを祝いました(上の写真)。丸太は場所によって太さがまちまちで、完全にカットするのに苦勞するゲストも。全員が丸太を切り終えると、その様子に笑いと歓声があがりました。

(報告・深町亜紀=たきかわ環境フォーラム)



最優秀賞を射止めた朝日絵里さんの作品

### シンボルマーク公募

### 最優秀賞は朝日絵里さんの作品に決定

新しい森のかがく活動センターのシンボルマークを決定するための選考会が某日、同センター内で開かれ、たきかわ環境フォーラム運営委員会による厳正な審査の結果、応募作品数十点の中から、朝日絵里さん(砂川市)の作品が最優秀賞に決まりました。次点には蔵谷由江さん(滝川市)の作品が選ばれました。朝日さんのこの作品がセンターの新しいシンボルマークです。またすべての応募作品は、センターで展示中です。応募者のみなさん、ありがとう!

◆たきかわ環境フォーラムのウェブサイトを(活用ください。フォーラム主催イベントの予定など、最新情報が満載。これまで開いたワークショップやシンポジウムのレポートも載せています。森のかがく活動センターのホームページ (http://www15.onn.ne.jp/~forester/) から、さあアクセス!

# 5日間で533人のみなさんに来館いただきました。

## 小川巖さんと歩く空知川の自然 (5月1日早朝)

まぶしいほどの五月晴れに誘われて、田村市長、安西教育長を加えた25人の参加者は空知川の河川敷に向かった。堤防を越えたるとん耳に入ってきたのはヒバリの声。空中にとどまって囀るので比較の見やすい。「ヒバリの声を聞くなって何年ぶりかしら!」。年輩の参加者から弾んだ声。

ノビタキが杭のてっぺんで歌っているのをプロミナーで見てもらう。「繁殖期のオスは体の色がと

ても鮮やかですなえ」という小川さんの説明に納得。ノビタキはその後も何度も現れ全員が堪能した。

歩きはじめて20分ほどすると、草原の様相が一変した。去年までイタドリが繁茂していた場所が裸地になっている。毒蛾が発生したので、根こそぎ掘り起こされたのだという。野鳥たちの生息場所でもあっただけに、もう少し違う方法はなかったものか、と思う。

それでもアオジ、ハクセキレイ、コチドリなどこの時季に見られる種は顔を揃えてくれた。アオサギが何度も上空を飛び交うたびに、特徴を覚えた人から「アオサギ、アオサギ」と声がる。終了間際に、小川さんも7年ぶりで姿を見たというアリスイが現れ、



エコ・ネットワーク代表の小川巖さん。記念講演会でも熱弁を振るった。

「こんな身近なところに自然が残っていることの大切さを実感して欲しい」というアドバイスで観察会を締めくくった。(越後弘=たきかわ環境フォーラム事務局長)



## 人気の Kids コーナー

「ジャンボ積み木」に「動物塗り絵」、「木のパズル」にたくさんの絵本や図鑑……。キッズコーナーは子どもたちの絶好のプレイエリア。つきそいのママたちも、ぺたり座って長時間のおしゃべり、OKです。

インターネットデスクも小学生たちに人気。「学校より速〜い」といってちよまえの口を利きながら、ネットサーフィンを楽しんでいます。初級者の方もぜひご利用ください。



## 森の音ミニコンサート (5月3日)

むせぶサククス  
渡部昭彦



吠えるギター  
瀬戸口正樹

シンガーソングライター瀬戸口正樹さんと、サクソフレイヤー渡部昭彦さんによるスペシャルコンサートは、詰めかけた聴衆を熱狂の渦に巻きこみました。次回は8月開演の予定です。

## えこあっぷ! な新連載 山菜名人のひと口! セリ (その1)

山の雪解け水が軽やかな水音を止めるころ、里ではタンポポが咲き始める。田植えの季節を迎え、「カッコウ」が鳴き始めると家庭菜園のはじまりである。

私の別名は「山菜の名人」。料理は当然ながら、育てる名人であることをつけ加えておきたい。きょう紹介するのは春の七草の1番手、「セリ」である。通常、セリは春先が食べ頃で夏場は固くなります。でも、できることなら春から秋までおいしく食べたいものですね! そこで裏技を…。(右表)

両脇のマメが小さい時(初夏まで)は日当たりが良いが、真夏から秋にかけてはマメが日よけになり、やわらかい「影セリ」が食べられる。

ここで付け加えておかなければならない事がある。それは……! セリを掘り取った採取地の跡始末である。掘り取った周辺

に、セリの根を大ざっぱに切りきざんで敷き均すとともに小川の底をさらった土砂などで軽く埋め戻す。こうするとセリは復元する。しかも株分けにより、以前より元気に繁茂する。これであなたも「山菜取り名人」となるわけだ!(次回はセリの食べ方)

(南川和廣・森のかがく活動センター館長)

### セリ栽培の手順

- ①畑に幅50cm、長さ2m、深さ30cmの溝を掘る(掘削土は両脇に)。
- ②完熟肥料を入れる(溝より5cmほど高く)。
- ③小川などから掘り取ってきたセリの根を10cm間隔に敷き均す(株分け)。
- ④③の上に堆肥を5cmほど敷き均す。
- ⑤④の上にモミガラを3cmほど敷き均す。
- ⑥両脇の掘削土に根曲竹を差し、インゲンや花マメ、トラマメ等を植える。

## ありがとう、そしてこれからも……

森のかがく活動センターの開館記念行事(5月1日~5日)は、たくさんのボランティアに支えられて大成功を収めました。國學院短大の学生さんたちは、キッズコーナーで絵本の読み聞かせに挑戦。渡辺増子さんが講師を務めた「木のおもちゃ作り」は大きな反響を呼び、続編として6月27日、今度は「古紙で作ろう! 手漉きハガキ」講座を開くことになりました。「こどもの日」には、農家のママさんたちがお餅つき大会の舞台裏を完全サポート。「次回はどうどんを打ちましょ

うか」と話が弾み、夏の「ピクニックコンサート」で実現するかも知れません。

たきかわ環境フォーラムはみなさまに支えられながら、これから着実に地域の「エコアッパ」を目指していきます。

(平田剛士=たきかわ環境フォーラム代表)

## 手作りおもちゃ・木の工房

### おもちつき (5月5日)



## またのお越しをお待ちしています。

2~3ページの写真撮影/吉田健一氏、北谷孝範(森のかがく活動センター)、平田剛士(たきかわ環境フォーラム)

◆豆知識 「春の七草」とは? お正月七日の「七草がゆ」に入れる若菜のことです。セリ、ナズナ、ゴギョウ(ハハコグサ)、ハコベラ(ハコベ)、ホトケノザ(タビラコ)、スズナ(カブ)、スズシロ(ダイコン)の七種。ちなみに「秋の七草」はハギ、ススキ、クズ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウで、こちらは食べられません。



# エコフットパス研究会が 発足しました!

## ◆フットパスとは

イギリスで、もともと牧場等にあった小道が、今はハイキングや歩く事の楽しみに利用されており、歩く権利が保障されている道のことです。

## ◆エコパ研究会の発足

5月1日のオープン記念講演で、エコ・ネットワークの小川巖氏から「丸加高原までのフットパスを計画してみてもどうか」という貴重な助言があり、5月5日にさっそく環境フォーラム内にエコフットパス研究会を立ち上げました。

◆「たきかわエコフットパス(仮称)」が目指すもの  
たきかわの自然を楽しめるルートを設定し、ルートマップの作成や、現地に手作り道しるべを作ったりすることを市民レベルの活動として行ないたいと考えています。また、沿線の環境調査や、地域の環境保全に関するルールを決めて多くの市民にフットパスを利用してもらうことも必要ではないでしょうか。

さらに将来的には、滞在型観光のひとつの手段として、

市民団体が運営する自然ガイドツアーなどにより市外からのエコフットパス利用者の受入れも計画できるかもしれません。

## ◆当面の活動

6月初旬には再度、小川氏を招いて具体的なルート選定に入る予定です。エコフットパスに興味のある方はぜひ、「森のかがく活動センター」まで連絡をお願いします。

(高橋一美=たきかわ環境フォーラム)

# 初夏の自然観察会

6月12日午前9時  
滝川・東公園集合

東公園の林内では、この時季、ムクドリやニューナイスズメが子育ての真っ最中です。線路に近い草原では、托卵相手のノビタキやオオヨシキリの留守を狙って、カッコウが飛び交い、エゾニューヤエゾノコリンゴが可憐な白い花をつけ始めます。たきかわ環境フォーラムと野鳥の会共催による自然観察会では、ベテランウォッチャーの解説を聞きながら、初夏の野鳥や草花を楽しみます。どうぞ気軽に参加ください。

とき 6月12日(土曜日)午前9時~午前11時  
雨天の場合は中止します。

ところ 滝川市・東公園  
交通安全祈願像前の広場にお集まりください

申し込み 不要です。当日、集合場所にお越しください。

参加料 傷害保険料として、1人100円かかります。

主催 たきかわ環境フォーラム、日本野鳥の会滝川支部

貸し出し用の双眼鏡と野鳥図鑑を用意しています。初めての方も安心してご参加ください。お問い合わせは森のかがく活動センターへ。



滝川市 森のかがく活動センター情報誌

えこあっぷ! 第7号 2004年6月1日発行

発行 滝川市 森のかがく活動センター

編集 たきかわ環境フォーラム・えこあっぷ!編集委員会

平田剛士/深町亜紀/北谷孝範

郵便番号 073-0034 北海道滝川市空知町2丁目6の31

森のかがく活動センター内 電話 0125-22-3410

電子メール forest\_00@mist.ocn.ne.jp

ウェブサイト http://www15.ocn.ne.jp/~forester/

**緊急**  
ワークショップ  
エコパ研「自然のしらべ方」  
六月一二日午後一時(予定)  
森のかがく活動センターにて  
特別ゲスト・小川巖さん